

## 第6編 地区別避難計画 (地区別ハザードマップ 平成28年7月作成)

---

- 1.1 地区別避難計画の作成概要
- 1.2 新町地区
- 1.3 春日地区
- 1.4 旭町地区
- 1.5 鶴原地区
- 1.6 下瓦屋地区
- 1.7 湊地区
- 1.8 上瓦屋地区
- 1.9 中庄地区

## 1.1 地区別避難計画の作成概要

市では、津波浸水想定区域及び河川の浸水想定区域の住民を対象に津波、河川氾濫の避難に関する住民ワークショップを実施した。住民ワークショップでは、各地区2回ずつ実施し、まち歩きや話し合いを通じて避難目標場所や避難経路、避難する際に注意すべき箇所の検討や、避難行動の流れに関する検討を行った。そして、その成果を「地区別避難計画」及び「地区別ハザードマップ」としてまとめた。

表 6.1-1 ワークショップ実施地区

実施地区	対象災害	実施日	場所	参加者
新町地区	津波	1回目：2014年10月25日 2回目：2014年11月24日	1回目：春日町会館	1回目：33名
春日地区	津波		2回目：新町会館	2回目：25名
旭町地区	津波			
鶴原地区	津波・河川	1回目：2014年11月22日	1回目：鶴原町会館	1回目：35名
下瓦屋地区	津波・河川	2回目：2015年2月22日	2回目：下瓦屋会館	2回目：9名
湊地区	津波・河川	1回目：2014年8月31日 2回目：2014年9月29日	1回目・2回目： 湊町会館	1回目：30～40名 2回目：18名
上瓦屋地区	河川	1回目：2014年12月20日	1回目・2回目： 上瓦屋長生会館	1回目：30名
中庄地区	河川	2回目：2015年1月17日		2回目：20名

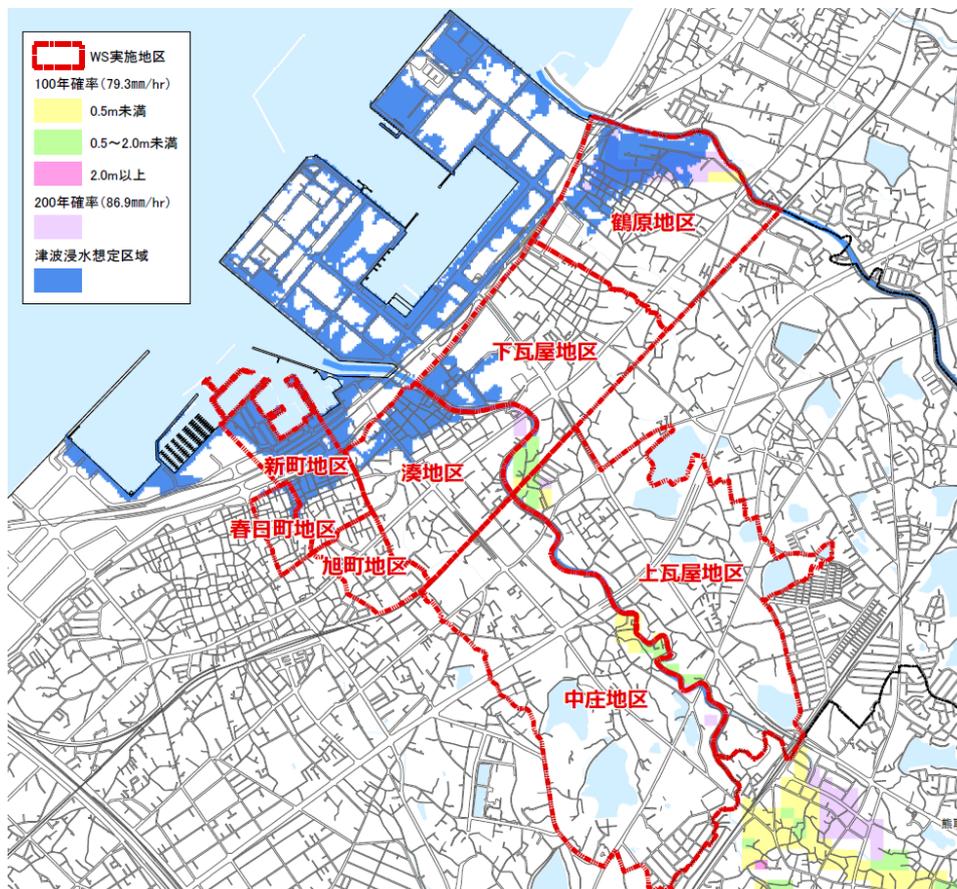


図 6.1-1 ワークショップ実施地区図

## <ワークショップ実施内容>

### 【1回目】

- ①災害・避難の学習（市より津波、洪水の発生の仕方、特徴、避難の必要性・方法の説明）
- ②地域の危険性把握（市より泉佐野市全体の災害危険区域（ハザード情報）の説明）
- ③避難行動についての確認（班ごとに地図等を用いて以下の事項について意見交換）
  - ・津波時、洪水時の避難先
  - ・避難時に危険な場所
  - ・安全な避難経路
  - ・避難行動（避難前の行動、情報入手法、要支援者の避難等）
- ④情報共有（各班の発表）



### 【2回目】

- ①避難経路の検証（1回目に決めた避難経路を実際に歩き、危険なところはないか確認）
- ②避難に対する課題・今後の対策について検討（班ごとに地図等を用いて以下の事項について意見交換）
  - ・現地歩きで気づいた避難経路、避難に対する課題
  - ・上記課題や今後の津波対策に対して、だれが（個人、地域、行政）何をすべきか
- ③情報共有（各班の発表）



## <地区別避難計画>

### ○ 目的

町会、自治会、自主防災組織など地域組織が自主的に津波や河川氾濫に備え、災害時に行動できるようになることを目的とする。

特に、避難に対して地域が何をやる必要があるのかを理解し、その後の防災教育、啓発、訓練等の活動を行う上での道しるべとなることを期待する。

### ○ 内容

地域や個人が行う防災活動の項目を平常時・災害時ごとに時系列に沿って整理したものである。各項目は住民ワークショップで出された意見をまとめたものである。

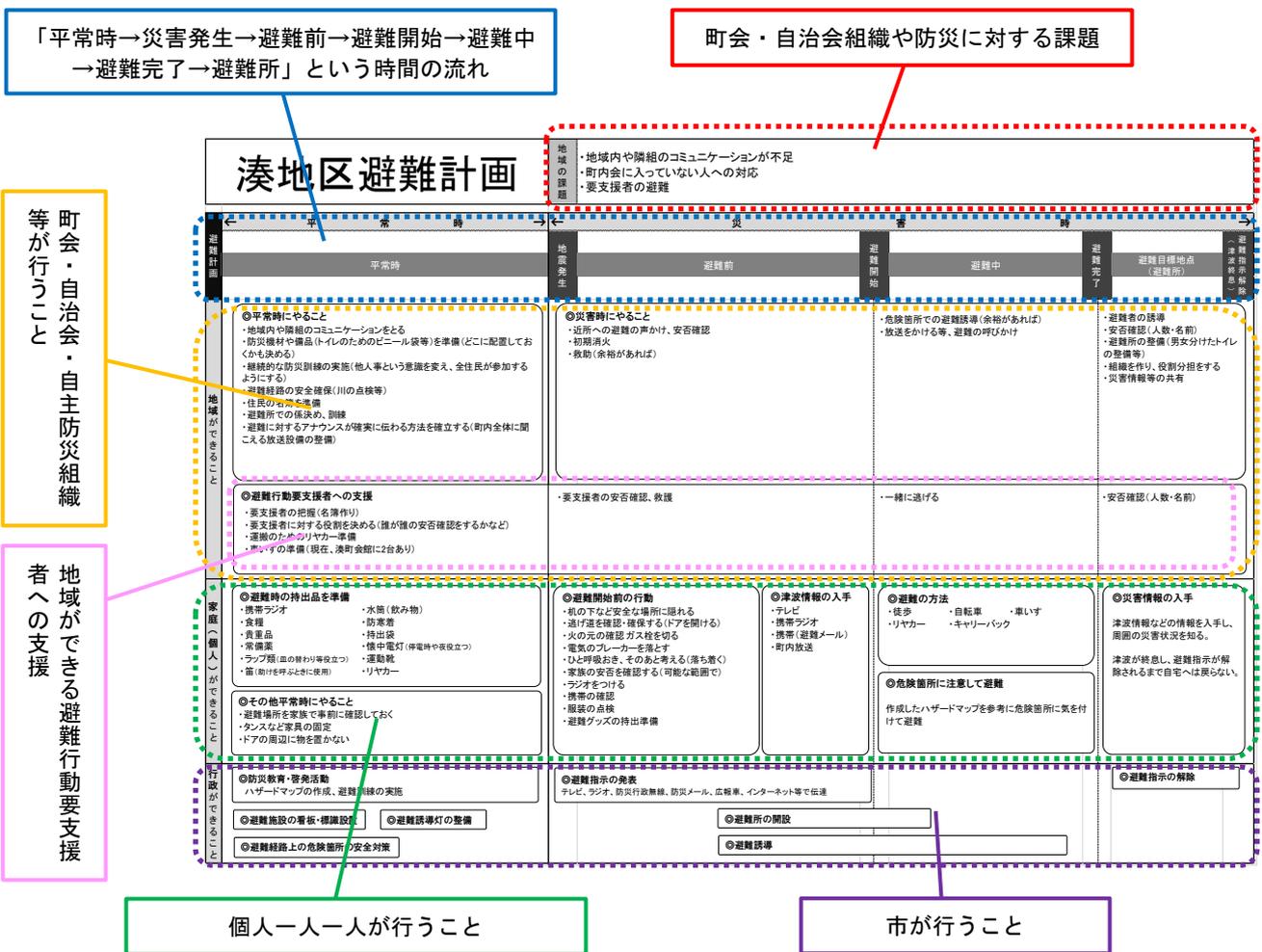


図 5.1-2 地区別避難計画の内容

○ 使い方

- ① 地域、個人、市が各段階で何をするのか理解する。
- ② 地域が行うことの活動項目を具体的にどのような方法で行うのか議論する。  
(具体的な方法が見つからない場合は、市にアドバイスを求める。)
- ③ 議論したことを行動する。
- ④ 行動したことについて、やり方に問題がなかったか振り返る。
- ⑤ 振り返ったことや足りないと感じたことなどを計画に反映、追加させる。
- ⑥ ①～⑤を繰り返す。

まずは避難訓練のときなど、実際にやってみましょう。

役員会等で話し合い、ひとつずつ解決策を考えていきましょう。

うまくできなかつたところを改善できるよう、準備をしましょう。

各項目を具体的にどうするか話し合い、できることから行動に移しましょう。

住民一人一人に周知しましょう。

		災 害 時				
		平常時	避難前	避難開始	避難中	避難完了
地域ができること	◎平常時にやること	・地域内や隣組のコミュニケーションをとる ・防災備材や備品(トイレのためのビニール袋等)を準備(どこに配置しておくかも決める) ・継続的な防災訓練の実施(他人事という意識を変え、全住民が参加するようにする) ・避難経路の安全確保(川の点検等) ・住民の名簿を準備 ・避難所での係決め、訓練 ・避難に対するアナウンスが確実に伝わる方法を確立する(町内全体に聞こえる放送設備の整備)	◎災害時にやること	・近所への避難の声かけ、安否確認 ・初期消火 ・救助(余裕があれば)	・危険箇所での避難誘導(余裕があれば) ・放送をかける等、避難の呼びかけ	・避難者の誘導 ・安否確認(人数・名前) ・避難所の整備(男女分けたトイレの整備等) ・組織を作り、役割分担をする ・災害情報等の共有
	◎避難行動要支援者への支援	・要支援者の把握(名簿作り) ・要支援者に対する役割を決める(誰が誰の安否確認をするかなど) ・避難のためのリヤカー準備 ・車いすの準備(現在、浪町会館に2台あり)	・要支援者の安否確認、救護	・一緒に送ける	・安否確認(人数・名前)	
家庭(個人)ができること	◎避難時の持出品準備	・携帯ラジオ ・食糧 ・貴重品 ・常備薬 ・ラップ類(皿の替わり等役立つ) ・寝具(掛け布団などに使用)	・水筒(飲み物) ・防寒着 ・持出現 ・懐中電灯(充電時や夜役立つ) ・運動靴 ・リヤカー	◎避難開始前の行動	◎津波情報の入手	◎避難の方法
	◎その他平常時にやること	・避難場所を家族で事前に確認しておく ・タンスなど家具の固定 ・ドアの周辺に物を置かない	・机の下など安全な場所に隠れる ・逃げ道を確保(ドアを開ける) ・火の元の確認(ガス栓を切る) ・電気のコアブレーカーを落とす ・ひと呼吸おき、そのあと考える(落ち着く) ・家族の安否を確認する(可能な範囲で) ・ラジオをつける ・携帯の確認 ・服装の点検 ・避難グッズの持出準備	・テレビ ・携帯ラジオ ・リヤカー ・携帯メール ・町内放送	・徒歩 ・自転車 ・車いす ・キャリーバック	◎災害情報の入手 津波情報などの情報を入手し、周囲の災害状況を知る。 津波が終息し、避難指示が解除されるまで自宅へは戻らない。
行政ができること	◎防災教育・啓発活動	ハザードマップの作成、避難訓練の実施	◎避難指示の発表	◎避難所の開設	◎避難誘導	◎避難指示の解除
	◎避難施設の看板・標識設置	◎避難誘導灯の整備	◎津波情報の入手	◎避難所の開設	◎避難誘導	◎避難指示の解除

図 5.1-3 地区別避難計画の使い方

○ 地域活動のポイント

- ・ できることから始める  
(初めから多くのことをやろうとしないで、できそうなことを少しずつ始める。)
- ・ 「優・良・可」で「可」を目指す  
(初めから「優」を目指すとは続かないので、「可」程度できればいいという気持ちで活動する。)
- ・ 小さなことでいいので続ける  
(定期的に議論の場を設ける、年に1回訓練をするなど活動を続けることが大切。)

## <地区別ハザードマップ>

### ○ 目的

住民一人一人が津波や河川氾濫に備え、自分たちの地域のどこが危険なのかを知り、災害時に必要な情報の入手と避難行動ができるようになることを目的とする。

### ○ 内容

- ・ 住民ワークショップでまち歩きをし、話し合った地域の危険箇所や避難所、また、津波や河川氾濫の浸水想定区域を示した地図
- ・ 災害時に必要となる情報と避難行動の目安
- ・ 避難に対する心構え
- ・ 平常時に準備すること、災害時の避難行動の流れ

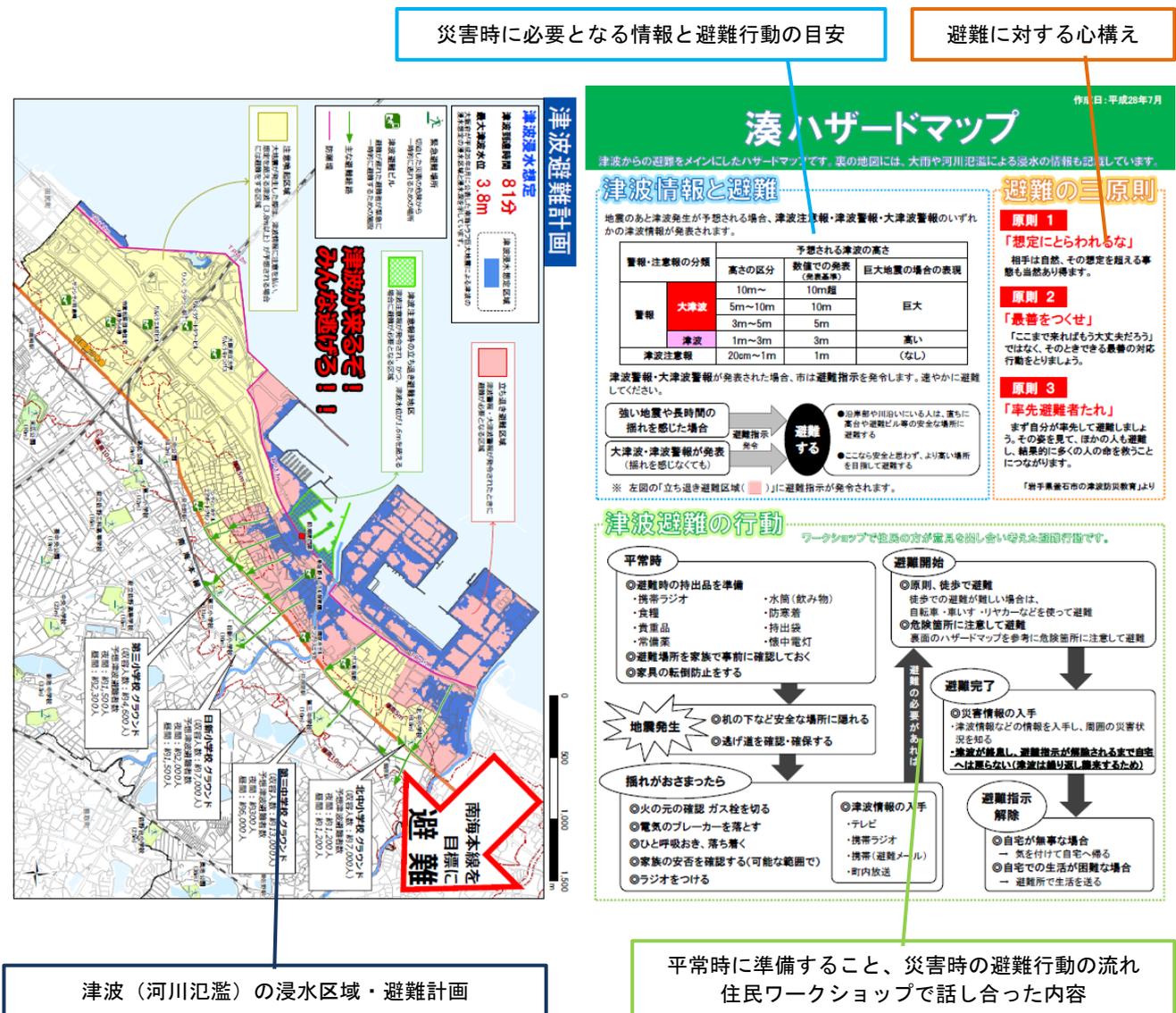


図 5.1-4 地区別ハザードマップの内容（表面）

住民ワークショップでまち歩きをし、話し合った地域の危険箇所や避難所、また、津波や河川氾濫の浸水想定区域を示した地図

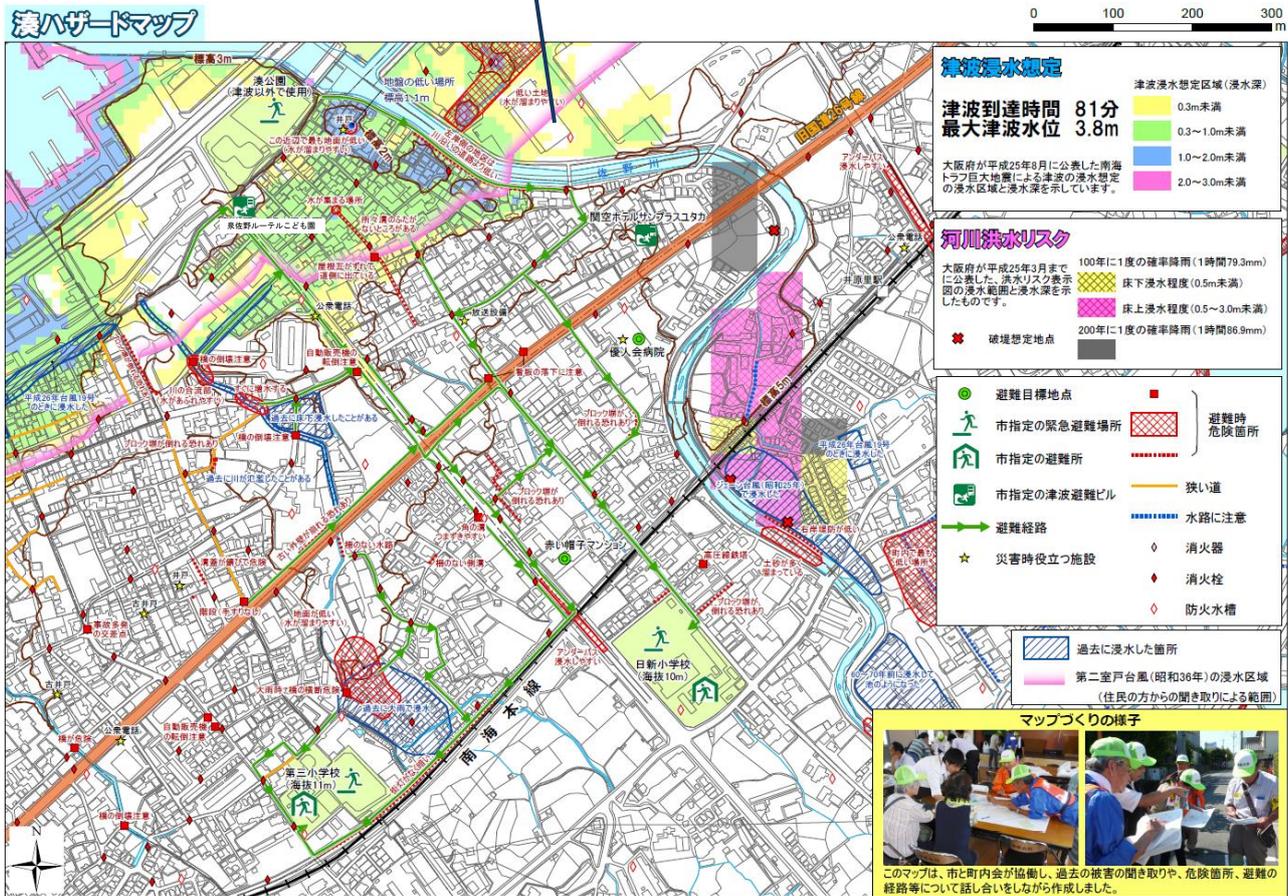


図 5.1-5 地区別ハザードマップの内容(裏面)

○ 使い方

- ① 地域のどこが津波や河川氾濫で浸水するのか、避難時に注意すべき場所はどこなのかを知る。
- ② どこへ、どの道を通って避難するのか考える。(複数パターン考える)
- ③ 避難の参考になる情報(警報注意報、河川水位情報など)を知る。
- ④ 平常時に準備すること、災害時の避難行動の流れを理解する。
- ⑤ 地図を見ながら実際にまちを歩いて確認する。

# 1.2 新町地区

← 平時 常時 災害 避難開始 避難完了 避難経路見直し(除)		時	時
<h2>新町地区避難計画</h2> <p>地域の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>避難路を確保するため、空き家の整理</li> <li>避難道路が狭い為、家屋倒壊等があればたちまち困る</li> </ul>	<p>避難開始</p> <p>避難完了</p> <p>避難経路見直し(除)</p>	<p>避難中</p>	<p>避難経路見直し(除)</p>
	<p>地震発生</p>	<p>避難前</p>	<p>避難中</p>
<p>← 平時 常時 災害 避難開始 避難完了 避難経路見直し(除)</p>	<p>← 平時 常時 災害 避難開始 避難完了 避難経路見直し(除)</p>	<p>← 平時 常時 災害 避難開始 避難完了 避難経路見直し(除)</p>	<p>← 平時 常時 災害 避難開始 避難完了 避難経路見直し(除)</p>
<p>地域ができること</p>	<p>◎平常時にやること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・街路樹の刈り込み(電線にかかっている)</li> <li>・常に隣組へ声かけをする</li> <li>・町内大掃除(特に溝掃除の復活)</li> <li>・備蓄の点検補充</li> <li>・避難経路の看板掲示(夜間でも見える矢印など)</li> <li>・年1回の避難訓練</li> <li>・避難経路の確保・確認</li> </ul> <p>◎避難行動要支援者への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から要支援者を把握しておく</li> <li>・防災会、民生委員との連携を密にする</li> <li>・簡易担架等準備する</li> <li>・周辺高齢者への周知徹底</li> </ul>	<p>◎災害時にやること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・隣近所への声かけ</li> <li>・ガレキの取りのぞき</li> <li>・天幕業務所に屋上へのカギを解除してもらう</li> <li>・夜間灯りの確保(懐中電灯など)</li> </ul>	<p>◎避難場所での指導者(町会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班単位で人員チェック</li> <li>・最小限のボランティア確保</li> <li>・近所の人達のチェック確認</li> <li>・新町、春日、旭防炎活動スター</li> <li>・防災組織による役割分担活用</li> </ul>
<p>家庭(個人)ができること</p>	<p>◎避難時の持出品を準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常袋</li> <li>・現金(10円玉、100円玉も準備)</li> <li>・携帯電話、充電器</li> <li>・電池</li> <li>・カンパ</li> <li>・ラジオ(できれば携帯充電のできるもの)</li> </ul> <p>◎飲料水、非常食(カンパン等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・預金通帳、印鑑</li> <li>・懐中電灯</li> <li>・薬、包帯</li> <li>・フエ</li> </ul> <p>◎その他平常時にやること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯で「おおさか防災情報メール」の登録しておく</li> <li>・家族で集合場所を定める</li> </ul>	<p>◎避難開始前の行動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・布団をかぶる(揺れがおさまるまで)</li> <li>・逃げ道の確保、ドアの開放</li> <li>・同居している家族の安全確認</li> <li>・ヘルメットをかぶり、スリッパを履き、玄関へ行く</li> <li>・火の始末をし、ガスの元栓を締める</li> <li>・電気のブレーカーを落とす</li> <li>・非常時待たせの準備</li> <li>・懐中電灯、ローソクの準備</li> <li>・玄関の戸締り</li> <li>・近所への呼びかけ</li> <li>・最低限の水等を持って逃げる</li> </ul> <p>◎津波情報の入手</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラジオ</li> <li>・携帯電話</li> <li>・テレビ</li> <li>・防災無線</li> <li>・会館からの放送</li> <li>・口コミ伝達</li> </ul>	<p>◎避難の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・徒歩</li> <li>・自転車</li> <li>・班員への声かけ</li> <li>・できるだけ班行動をとる</li> </ul> <p>◎危険箇所へ注意して避難</p> <p>作成したハザードマップを参考に危険箇所に気を付けて避難</p>
<p>行政ができること</p>	<p>◎防災教育・啓発活動</p> <p>ハザードマップの作成、避難訓練の実施</p> <p>◎避難施設の看板・標識設置</p> <p>◎避難誘導の整備</p> <p>◎避難経路上の危険箇所の安全対策</p>	<p>◎避難指示の発表</p> <p>テレビ、ラジオ、防災行政無線、防災メール、広報車、インターネット等で伝達</p> <p>◎避難所の開設</p> <p>◎避難誘導</p>	<p>◎避難指示の解除</p>

# 新町ハザードマップ

0 100 200 300 m



## 津波浸水想定

津波浸水想定区域(浸水深)

- 0.3m未満
- 0.3~1.0m未満
- 1.0~2.0m未満
- 2.0~3.0m未満
- 3.0~4.0m未満

津波到達時間 **81分**  
最大津波水位 **3.8m**

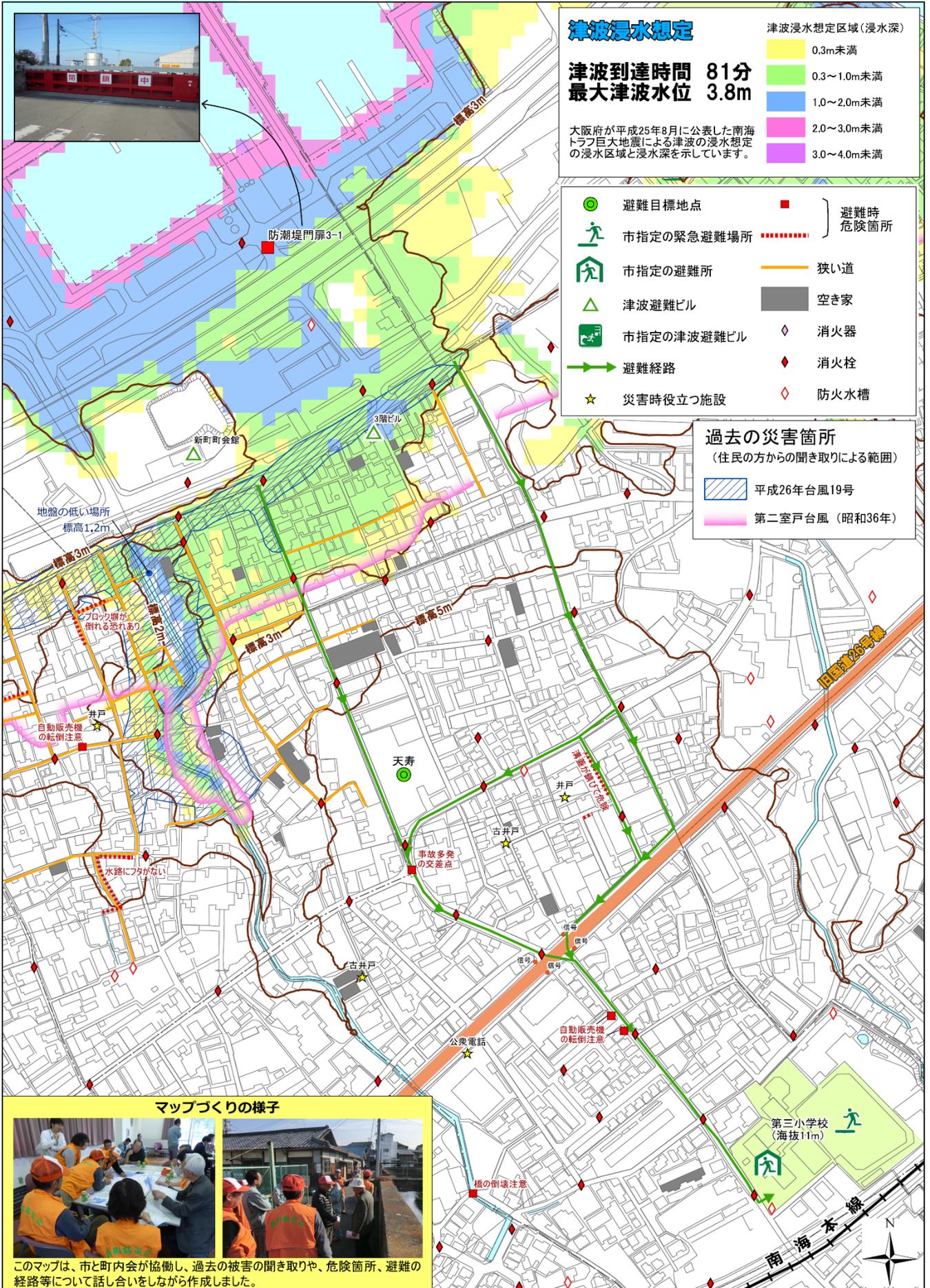
大阪府が平成25年8月に公表した南海トラフ巨大地震による津波の浸水想定  
の浸水区域と浸水深を示しています。

- |              |           |
|--------------|-----------|
| ● 避難目標地点     | ■ 避難時危険箇所 |
| 歩 市指定の緊急避難場所 | ..... 狭い道 |
| 歩 市指定の避難所    | ■ 空き家     |
| △ 津波避難ビル     | ◇ 消火器     |
| ■ 市指定の津波避難ビル | ◇ 消火栓     |
| → 避難経路       | ◇ 防火水槽    |
| ★ 災害時役立つ施設   |           |

## 過去の災害箇所

(住民の方からの聞き取りによる範囲)

- 平成26年台風19号
- 第二室戸台風(昭和36年)



## マップづくりの様子



このマップは、市と町内会が協働し、過去の被害の聞き取りや、危険箇所、避難の経路等について話し合いをしながら作成しました。

# 1.3 春日地区

← 平時		災害時		避難完了	
← 平時		災害時		避難完了	
<h2 style="text-align: center;">春日地区避難計画</h2> <p>地域の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人が住めるような町づくり</li> <li>・要支援者の救助</li> </ul>		<p>避難開始</p> <p>避難中</p> <p>避難完了</p> <p>避難目標地点(避難所)</p> <p>(津波・地震・火災・暴風)</p>			
<p>地域ができること</p> <p>◎平常時にやること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災器具の点検</li> <li>・定期的に避難時危険箇所を把握する</li> <li>・井戸水源の確認と利用させてもらうようにする</li> <li>・普段から挨拶を通して近隣住民の顔を知っておく</li> <li>・防災訓練を定期的に行う</li> <li>・排水ポンプの追加設置を市に申し入れる</li> <li>・緊急連絡網の整備、スピーカー等(行政と協力)</li> <li>・避難訓練の案内を充実し、全員参加を目指す</li> <li>・避難ルートの案内を(数ルート)町民に周知</li> <li>・災害時一時避難場所を町民に周知</li> </ul> <p>◎避難行動要支援者への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から要支援者を把握しておく</li> <li>・避難訓練を通して弱者の救助器具を備えておく</li> </ul>		<p>◎災害時にやること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出来る限り訓練通り班行動をとる</li> <li>・近所の方々に声をかけ確認</li> <li>・避難を第一に考える</li> </ul> <p>◎避難開始前の行動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・布団をかぶる(揺れがおさまるまで)</li> <li>・逃げ道の確保、ドアの開放</li> <li>・同居している家族の安全確認</li> <li>・ヘルメットをかぶり、スリッパを履き、玄関へ行く</li> <li>・火の始末をし、ガスの元栓を締める</li> <li>・電気のブレーカーを落とす</li> <li>・懐中電灯、ローソクの準備</li> <li>・玄関の戸締り</li> <li>・近所への呼びかけ</li> </ul> <p>◎津波情報の入手</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラジオ</li> <li>・携帯電話</li> <li>・テレビ</li> <li>・防災無線</li> <li>・会館からの放送</li> <li>・口コミ伝達</li> </ul>		<p>◎避難開始後の行動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難人数(名簿)の点検、確認</li> <li>・津波以外の場合、未確認の人を探しに行く</li> <li>・班ごとに役割分担を決める</li> </ul> <p>◎避難場所集合後、体制をつくり支援</p>	
<p>家庭(個人)ができること</p> <p>◎避難時の持出品を準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常袋</li> <li>・現金(10円玉、100円玉も準備)</li> <li>・携帯電話、充電器</li> <li>・電池</li> <li>・カッパ</li> <li>・ラジオ(できれば携帯充電のできるもの)</li> </ul> <p>◎その他平常時にやること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯で「おおさか防災情報メール」の登録をしておく</li> </ul>		<p>◎避難の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・徒歩</li> <li>・自転車</li> <li>・班員への声かけ</li> <li>・できるだけ班行動をとる</li> </ul> <p>◎危険箇所において避難</p> <p>作成したハザードマップを参考に危険箇所に気を付けて避難</p>		<p>◎災害情報の入手</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波情報などの情報入手し、周囲の災害状況を知る。</li> <li>・津波が終息し、避難指示が解除されるまで自宅へは戻らない。</li> </ul>	
<p>行政ができること</p> <p>◎防災教育・啓発活動</p> <p>ハザードマップの作成、避難訓練の実施</p> <p>◎避難施設の看板・標識設置</p> <p>◎避難誘導灯の整備</p> <p>◎避難経路上の危険箇所の安全対策</p>		<p>◎避難指示の発表</p> <p>テレビ、ラジオ、防災行政無線、防災メール、広報車、インターネット等で伝達</p> <p>◎避難所の開設</p> <p>◎避難誘導</p>		<p>◎避難指示の解除</p>	

# 春日町ハザードマップ

0 100 200 300 m

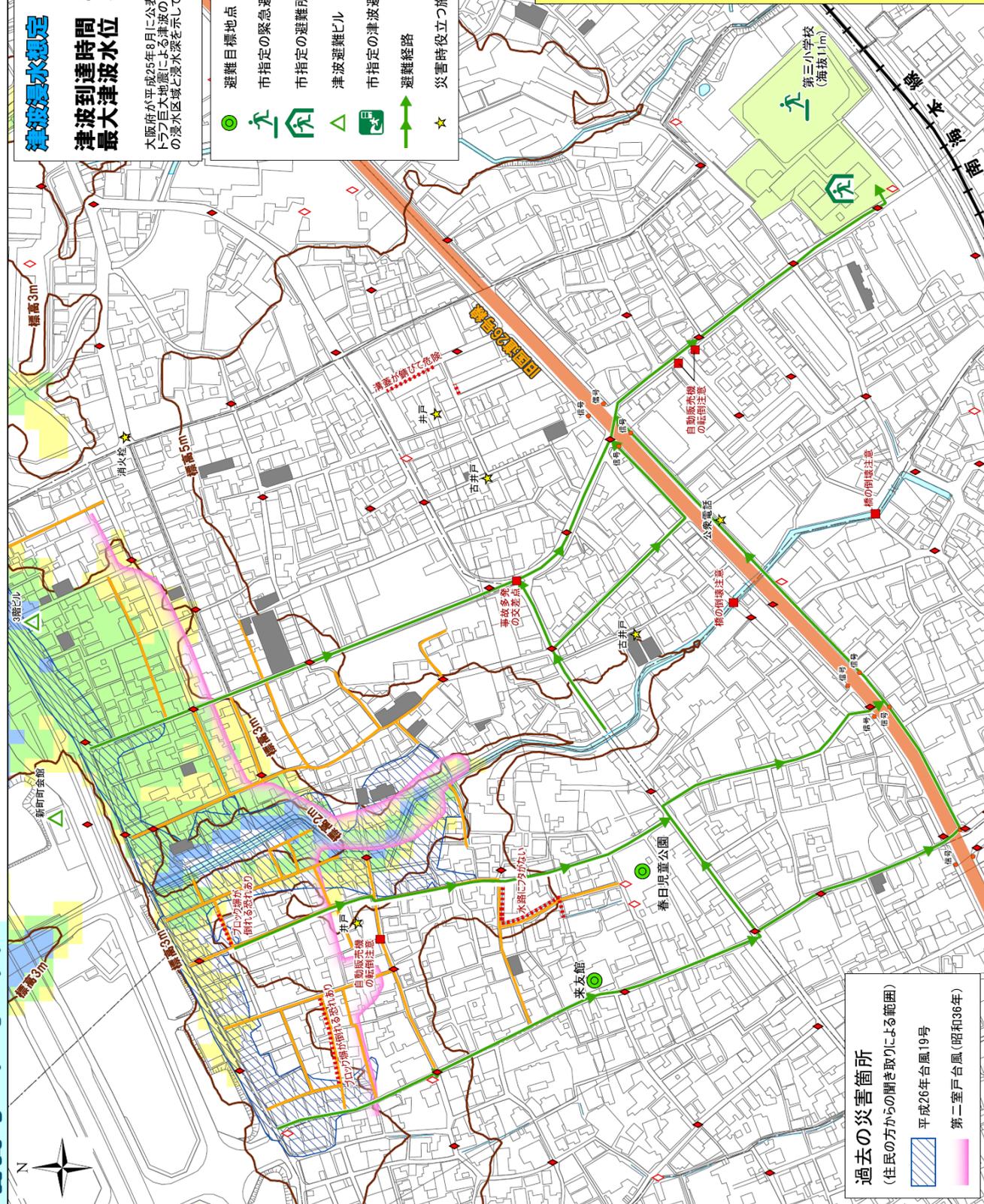
## 津波浸水想定

津波到達時間 **81分**  
最大津波水位 **3.8m**

津波浸水想定区域(浸水深)  
 0.3m未満  
 0.3~1.0m未満  
 1.0~2.0m未満

大阪府が平成25年8月に公表した南海トラフ巨大地震による津波の浸水想定  
の浸水区域と浸水深を示しています。

	避難目標地点		避難時危険箇所
	市指定の緊急避難場所		
	市指定の避難所		狭い道
	津波避難ビル		空き家
	市指定の津波避難ビル		消火器
	避難経路		消火栓
	災害時役立つ施設		防火水槽



### マップづくりの様子

このマップは、市と町内会が協働し、過去の被害の聞き取りや、危険箇所、避難の経路等について話し合いをしながら作成しました。

### 過去の災害箇所

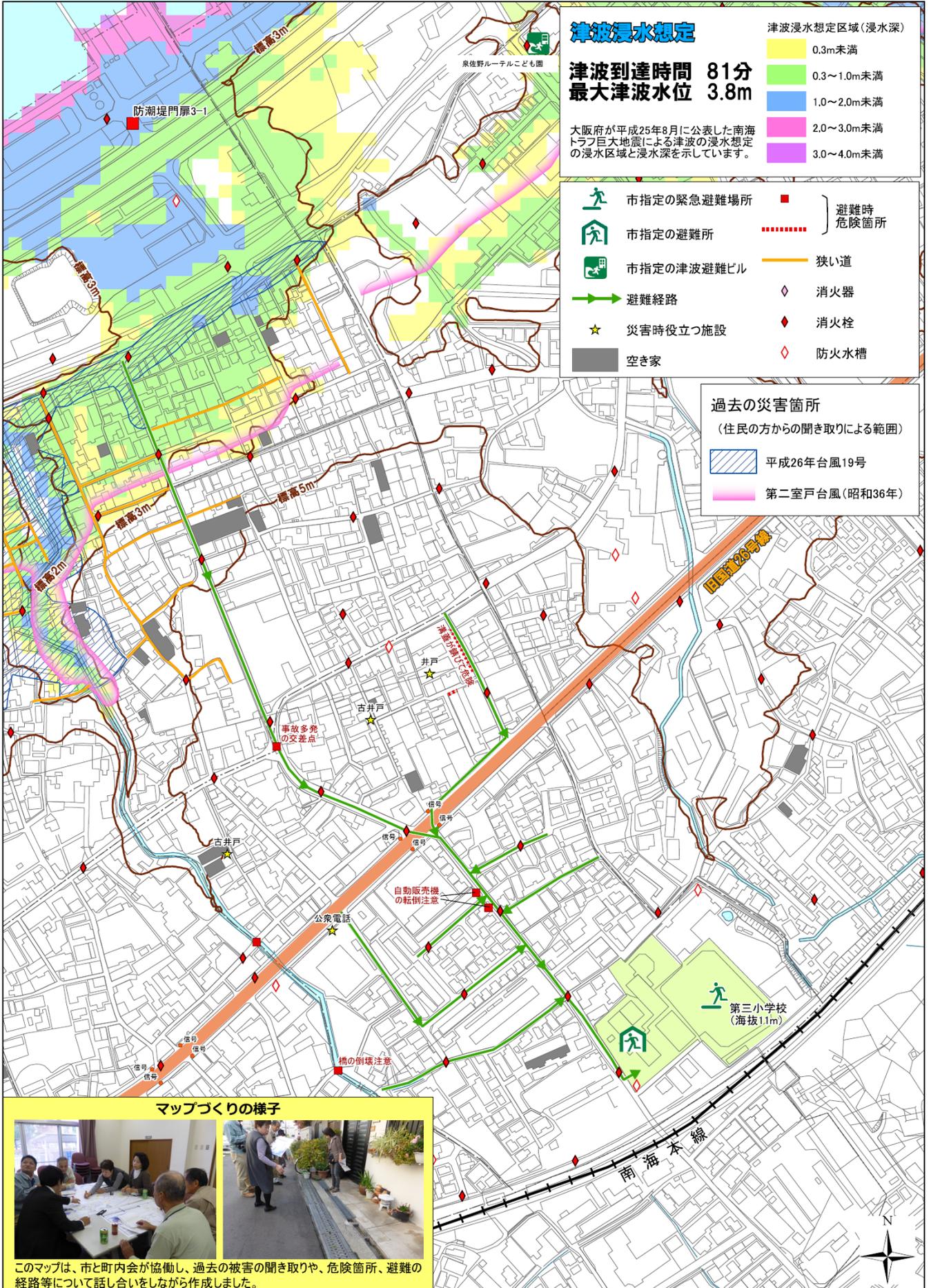
(住民の方からの聞き取りによる範囲)

- 平成26年台風19号
- 第二室戸台風(昭和36年)



# 旭町ハザードマップ

0 100 200 300 m



## 津波浸水想定

津波到達時間 **81分**  
 最大津波水位 **3.8m**

大阪府が平成25年8月に公表した南海トラフ巨大地震による津波の浸水想定  
 の浸水区域と浸水深を示しています。

津波浸水想定区域(浸水深)	
0.3m未満	(Yellow)
0.3~1.0m未満	(Light Green)
1.0~2.0m未満	(Blue)
2.0~3.0m未満	(Pink)
3.0~4.0m未満	(Purple)

	市指定の緊急避難場所		避難時危険箇所
	市指定の避難所		
	市指定の津波避難ビル		狭い道
	避難経路		消火器
	災害時役立つ施設		消火栓
	空き家		防火水槽

過去の災害箇所 (住民の方からの聞き取りによる範囲)	
	平成26年台風19号
	第二室戸台風(昭和36年)

### マップづくりの様子

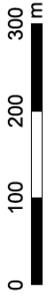


このマップは、市と町内会が協働し、過去の被害の聞き取りや、危険箇所、避難の経路等について話し合いをしながら作成しました。



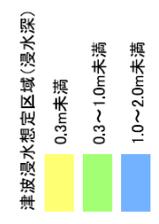


# 鶴原ハザードマップ



## 津波浸水想定

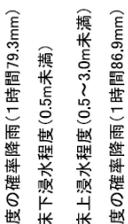
**津波到達時間 81分**  
**最大津波水位 3.8m**



大坂府が平成25年8月に公表した南海トラフ巨大地震による津波の浸水想定図の浸水区域と浸水深を示しています。

## 河川洪水リスク

100年に1度の確率降雨(1時間79.3mm)  
100年に1度の確率降雨(1時間86.9mm)



平成26年台風19号の浸水箇所  
(住民の方からの聞き取りによる範囲)

# 津波だ！みんな逃げる！！

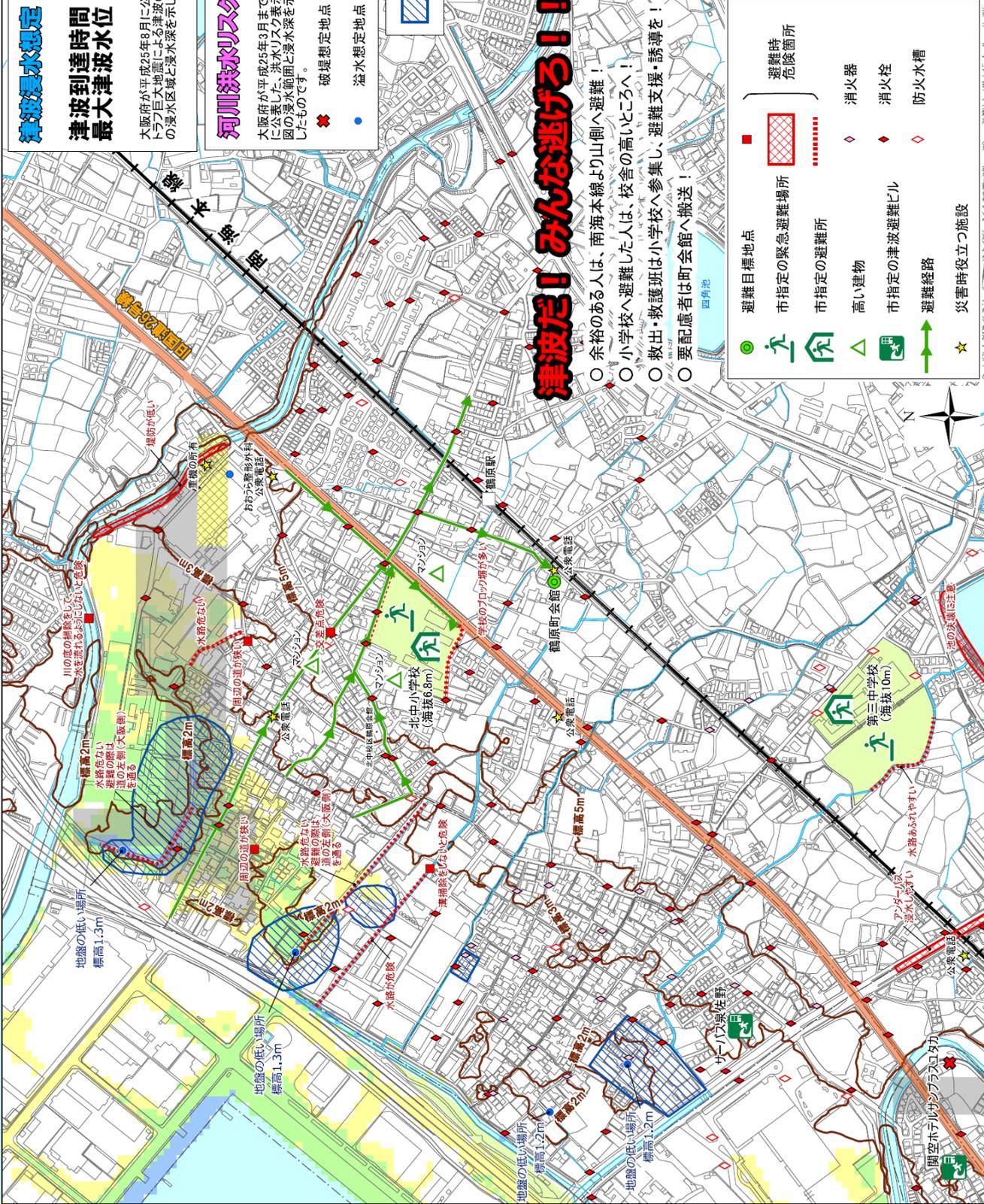
- 余裕のある人は、南海本線より山側へ避難！
- 小学校へ避難した人は、校舎の高いところへ！
- 救出・救護班は小学校へ参集し、避難支援・誘導を！
- 要配慮者は町会館へ搬送！



マップづくりの様子



このマップは、市と町会が協働し、過去の被害の聞き取りや、危険箇所、避難の経路等について話し合いをしながら作成しました。



1.6 下瓦屋地区

下瓦屋地区避難計画		← 平時 常時 災害 避難完了 →			
		← 平時	常時	災害	避難完了 →
地域 の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>集合住宅等、若者を町内会に入れる</li> <li>地域の団結</li> </ul>	<p>避難開始</p>	<p>避難中</p>	<p>避難完了</p>	<p>避難勧告等</p>
地域 ができること	<p>◎平常時にやること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年に1回避難訓練実施</li> <li>消火栓の確認</li> <li>防災機関との連携を確保</li> <li>初期消火訓練など出火防止の啓発</li> <li>自然災害について正しい知識の普及を図る</li> <li>道路沿いの塀の倒壊等に注意して2つ目の避難経路を考慮しておく</li> </ul>	<p>◎災害時にやること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>放送設備で、3分間避難を呼びかける</li> <li>初期消火活動</li> <li>負傷者の把握</li> <li>救出活動</li> <li>災害情報の広報</li> <li>地域の被害状況等の把握</li> </ul>	<p>◎避難誘導、情報の伝達を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第3中の体育館で点呼を受ける</li> <li>必要に応じて炊き出しを行う</li> <li>食料及び応急物資の調達、配分</li> </ul>	<p>◎災害情報の入手</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ラジオ</li> <li>テレビ</li> <li>スマートフォン</li> <li>携帯電話</li> <li>町内放送</li> </ul>	<p>◎避難勧告・避難指示の発布</p> <p>ラジオ、テレビ、防災行政無線、防災メール、広報車、インターネット等で伝達</p>
家庭（個人） ができること	<p>◎避難行動要支援者への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練実行</li> <li>日頃から声をかけあう</li> <li>リヤカー、担架の準備</li> </ul> <p>◎避難時の持出品を準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水</li> <li>食料品</li> <li>ヘルメット、防災頭巾など</li> <li>ラジオ</li> <li>携帯電話</li> <li>懐中電灯、電池</li> <li>貴重品（お金・財布）</li> <li>医療品、常備薬</li> <li>ビニール袋</li> <li>ちり紙</li> <li>毛布、枕</li> <li>防寒具、下着類</li> </ul> <p>◎その他平常時にやること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>避難の方法や避難先を家族で決めておく</li> <li>家具の転倒防止、落下物の整理</li> </ul>	<p>◎避難開始前の行動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>落ちて着いて自分の身を守る</li> <li>ドアや窓を開けて、逃げ道を確認する</li> <li>火の元の確認、ガスを止める</li> <li>電気のブレーカー落とす</li> <li>家族の無事を確認</li> <li>テレビ、ラジオ情報収集</li> <li>逃げる用意、扉の確認</li> <li>隣近所への声かけ</li> <li>持出し品の確認</li> <li>戸締りをする</li> <li>火が出ていたら協力して消火</li> </ul>	<p>◎避難の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歩いて避難</li> <li>ドアや窓を開けて、逃げ道を確認</li> <li>出来るだけ団体行動</li> <li>隣近所に声をかけてから逃げる</li> <li>行き先を書いたメモを立つところに残す</li> </ul> <p>◎危険箇所において避難</p> <p>作成したハザードマップを参考に危険箇所に気を付けて避難</p>	<p>◎災害情報の入手</p> <p>災害情報などの情報を入手し、周囲の災害状況を知る。避難勧告等が解除されるまで自宅へは戻らない。</p>	<p>◎避難勧告・避難指示の解除</p>
行政 ができること	<p>◎防災納骨・啓発活動</p> <p>ハザードマップの作成、避難訓練の実施</p> <p>◎避難施設の看板・標識設置</p> <p>◎避難誘導灯の整備</p> <p>◎避難経路上の危険箇所の安全対策</p>	<p>◎避難勧告・避難指示の発布</p> <p>ラジオ、テレビ、防災行政無線、防災メール、広報車、インターネット等で伝達</p>	<p>◎避難勧告・避難指示の解除</p>	<p>◎災害情報の入手</p> <p>災害情報などの情報を入手し、周囲の災害状況を知る。避難勧告等が解除されるまで自宅へは戻らない。</p>	<p>◎避難勧告・避難指示の解除</p>



避難計画		避難計画		避難計画		避難計画			
←	→	←	→	←	→	←	→		
平	常	時	時	災	時	時	時		
平常時		平常時		避難前		避難中			
避難計画		避難計画		避難開始		避難完了			
地域		地域		津波		津波			
が		が		が		が			
できる		できる		できる		できる			
こと		こと		こと		こと			
<p><b>湊地区避難計画</b></p> <p>・地域内や隣組のコミュニケーションが不足 ・町内会に入っていない人への対応 ・要支援者の避難</p>		<p>地域の問題</p>		<p>・近所への避難の声かけ、安否確認 ・初期消火 ・救助(余裕があれば)</p> <p>◎災害時にやること</p> <p>・避難者の誘導 ・安否確認(人数・名前) ・避難所の整備(男女分けたトイレの整備等) ・組織を作り、役割分担をする ・災害情報の共有</p>		<p>・津波情報などの情報入手し、周囲の災害状況を知る。 津波が終息し、避難指示が解除されるまで自宅へは戻らない。</p> <p>◎災害情報の入手</p>		<p>津波情報などの情報入手し、周囲の災害状況を知る。 津波が終息し、避難指示が解除されるまで自宅へは戻らない。</p> <p>◎災害情報の入手</p>	
<p>◎平常時にやること</p> <p>・地域内や隣組のコミュニケーションをとる ・防災備材や備品(トイレのためのビニール袋等)を準備(どこに配置しておくかも決める) ・継続的な防災訓練の実施(他人事という意識を変え、全住民が参加するようにする) ・避難経路の安全確保(川の点検等) ・住民の名簿を準備 ・避難所での係決め、訓練 ・避難に対するアナウンスが確実に伝わる方法を確立する(町内全体に聞こえる放送設備の整備)</p>		<p>◎避難行動要支援者への支援</p> <p>・要支援者の把握(名簿作り) ・要支援者に対する役割を決める(誰が誰の安否確認をするかなど) ・避難のためのリヤカー準備 ・車いすの準備(現在、湊町会館に2台あり)</p>		<p>◎避難開始前の行動</p> <p>・机の下など安全な場所に隠れる ・逃げ道を確認・確保する(ドアを開ける) ・火の元の確認(ガス栓を切る) ・電気のブレーカーを落とす ・ひと呼吸おき、そのあと考える(落ち着く) ・家族の安否を確認する(可能な範囲で) ・ラジオをつける ・携帯の確認 ・服装の点検 ・避難グッズの持出準備</p>		<p>◎津波情報の入手</p> <p>・テレビ ・携帯ラジオ ・携帯(避難メール) ・町内放送</p>		<p>◎避難の方法</p> <p>・徒歩 ・リヤカー ・自転車 ・キャリーバック ・車いす</p> <p>◎危険箇所に注意して避難</p> <p>作成したハザードマップを参考に危険箇所に気を付けて避難</p>	
<p>◎避難時の持出品を準備</p> <p>・携帯ラジオ ・食糧品 ・貴重品 ・常備薬 ・ラップ類(皿の替わり等役立つ) ・缶(助けを呼ぶときに使用) ・リヤカー</p> <p>◎その他平常時にやること</p> <p>・避難場所を家族で事前に確認しておく ・タンスなど家具の固定 ・ドアの周辺に物を置かない</p>		<p>◎防災教養・啓発活動</p> <p>ハザードマップの作成、避難訓練の実施</p> <p>◎避難施設の看板・標識設置</p> <p>◎避難誘導灯の整備</p> <p>◎避難経路上の危険箇所の安全対策</p>		<p>◎避難指示の発着</p> <p>テレビ、ラジオ、防災行政無線、防災メール、広報車、インターネット等で伝達</p> <p>◎避難所の開設</p> <p>◎避難誘導</p>		<p>◎避難指示の解除</p>			

# 浸ハザードマップ



## 津波浸水想定

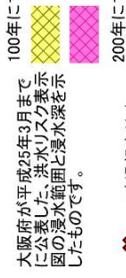
津波到達時間 **81分**  
 最大津波水位 **3.8m**



大阪府が平成25年8月に公表した南海トラフ巨大地震による津波の浸水想定  
 の浸水区域と浸水深を示しています。

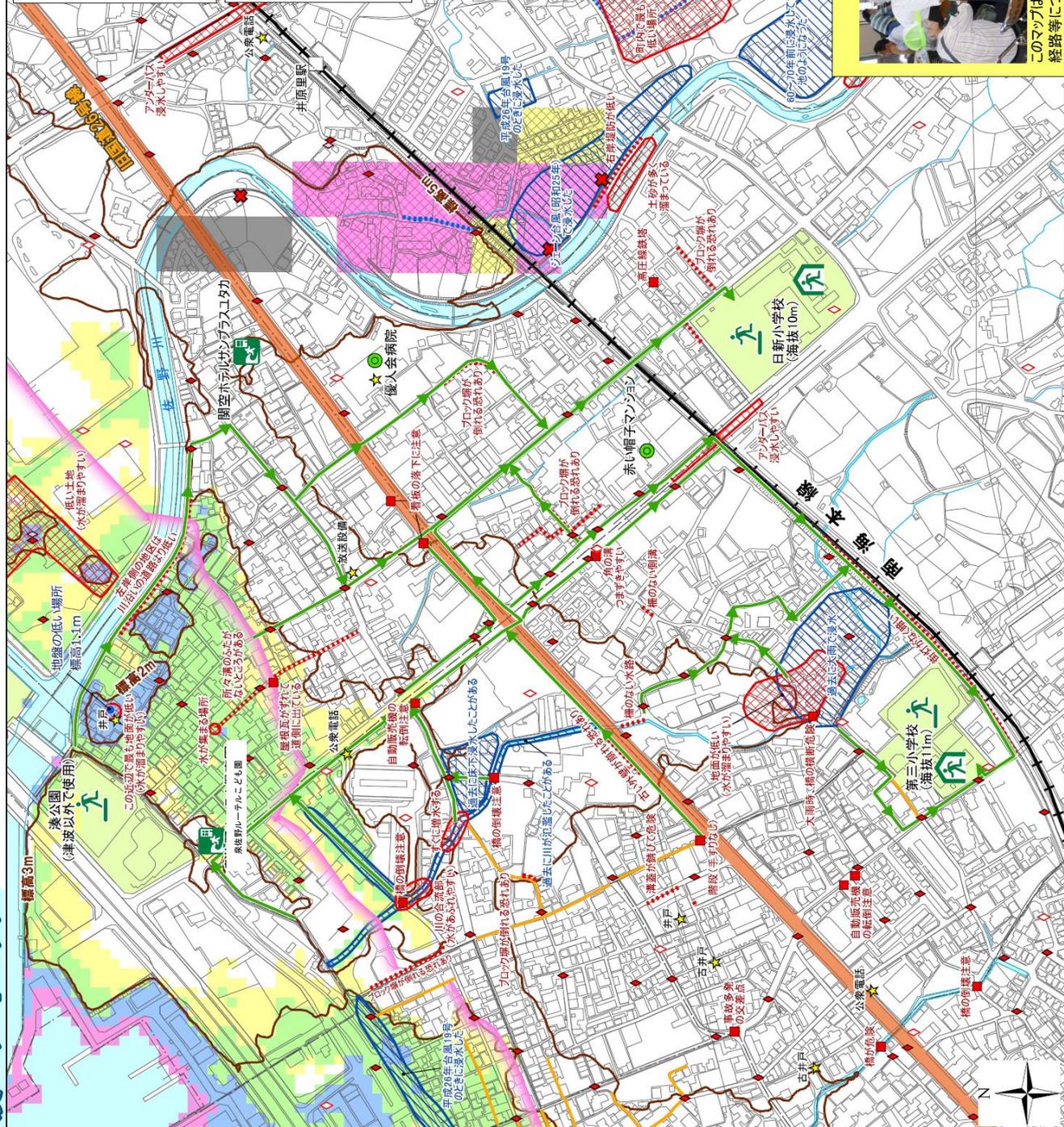
## 河川洪水リスク

大阪府が平成25年3月までに公表した「洪水リスク」を示した浸水範囲と浸水深を示したものです。



**避難目標地点**  
 市指定の緊急避難場所 (Red square with cross-hatch)  
 市指定の避難所 (Red square with diagonal lines)  
 市指定の津波避難ビル (Red square with horizontal lines)  
 避難経路 (Green arrow)  
 災害時役立つ施設 (Yellow star)  
 避難目標地点 (Green circle with cross-hatch)  
 避難時危険箇所 (Red square with diagonal lines)  
 狭い道 (Yellow line)  
 水路に注意 (Blue dashed line)  
 消火器 (Red diamond)  
 消火栓 (Red diamond with cross-hatch)  
 防火水槽 (Red diamond with horizontal lines)

**過去に浸水した箇所**  
 第二室戸台風 (昭和36年) の浸水区域 (Pink area)  
 (住民の方からの聞き取りによる範囲)



## マップづくりの様子



このマップは、市と町内会が協働し、過去の被害の聞き取りや、危険箇所、避難の経路等について話し合いながら作成しました。



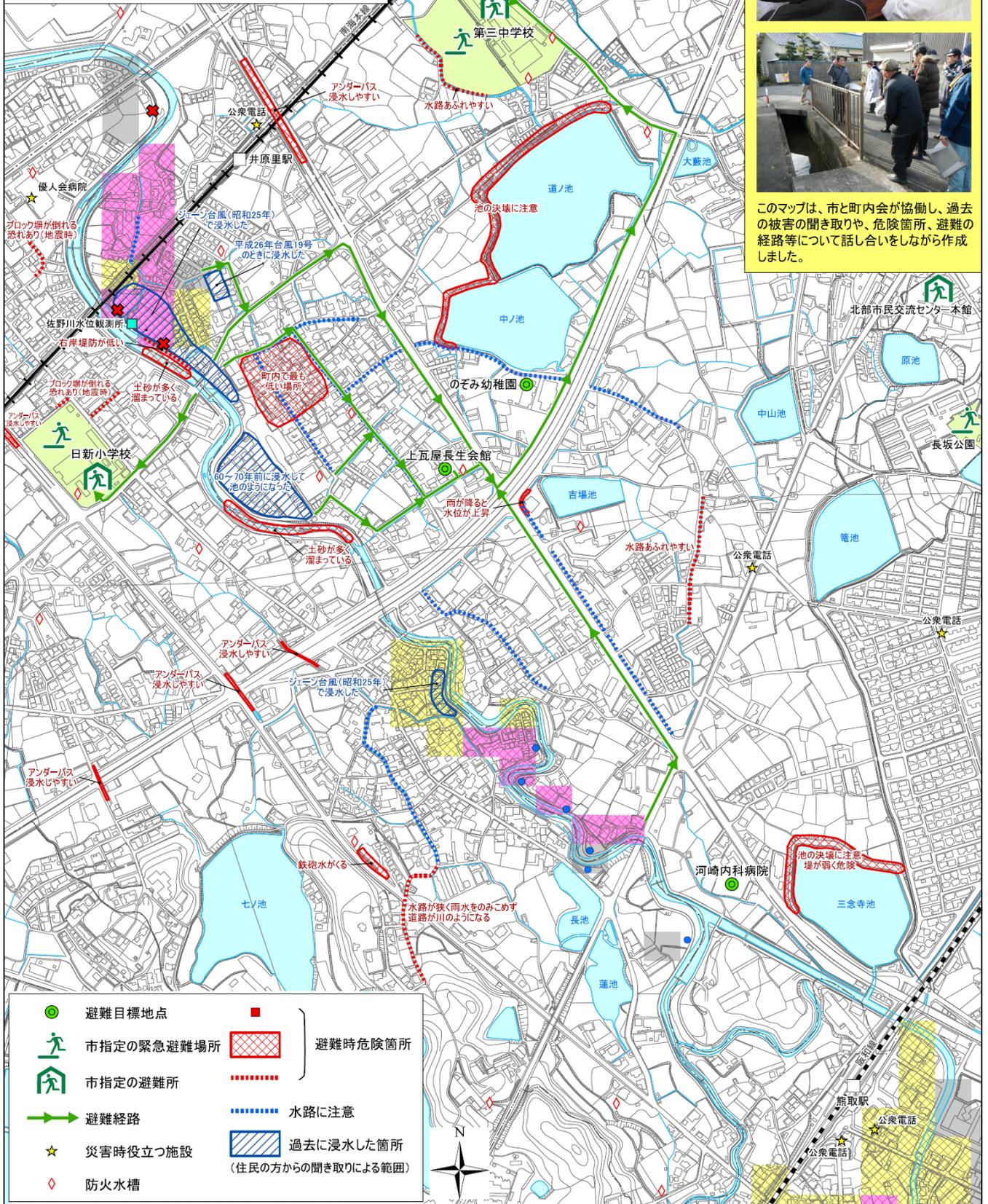
# 上瓦屋ハザードマップ

0 100 200 300 m

## 河川洪水リスク

大阪府が平成25年3月までに公表した、洪水リスク表示図の浸水範囲と浸水深を示したものです。

- 100年に1度の確率降雨(1時間79.3mm)
- 床下浸水程度(0.5m未満)
- 床上浸水程度(0.5~3.0m未満)
- 200年に1度の確率降雨(1時間86.9mm)
- 破堤想定地点
- 溢水想定地点



## マップづくりの様子



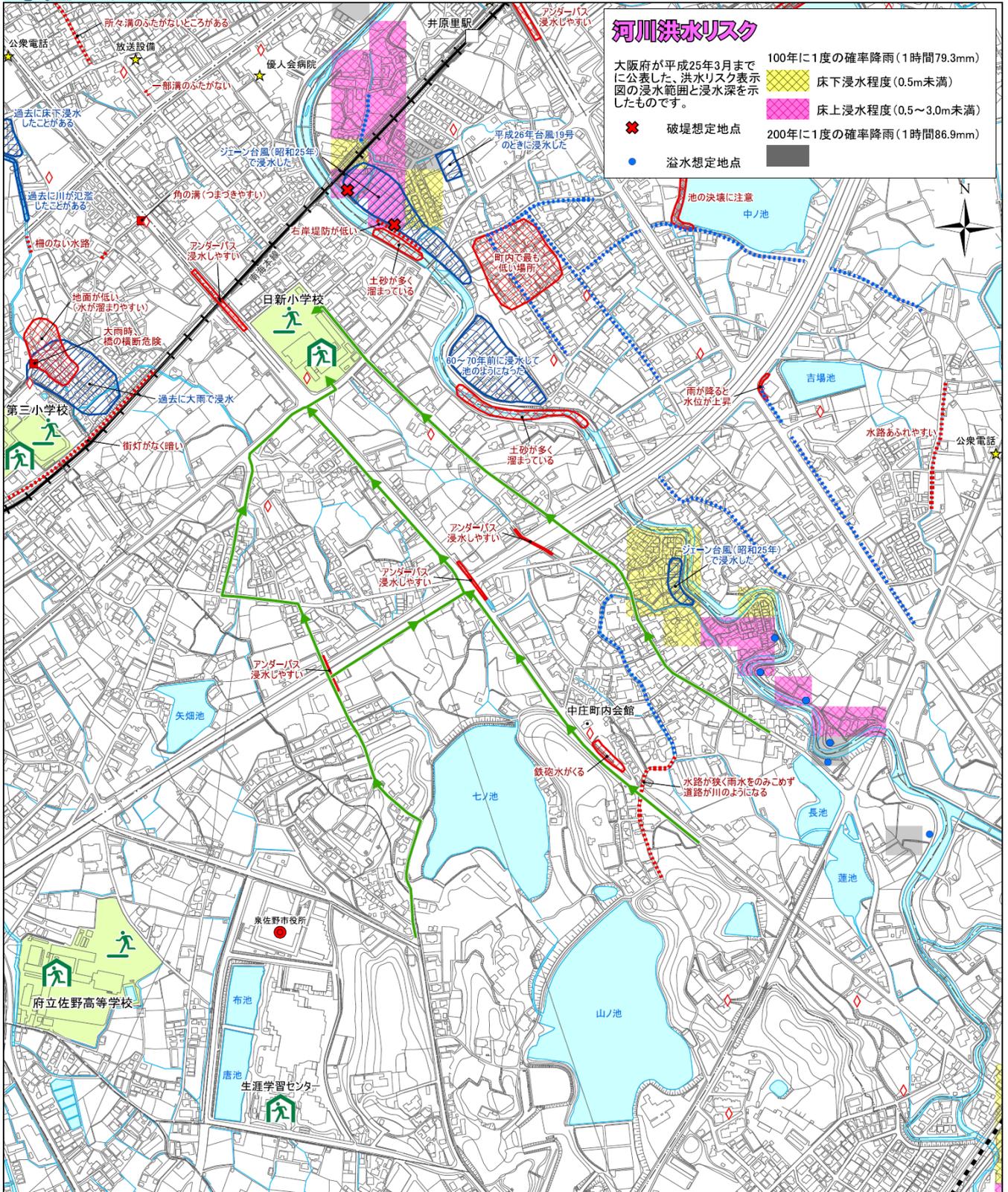
このマップは、市と町内会が協働し、過去の被害の聞き取りや、危険箇所、避難の経路等について話し合いをしながら作成しました。

- 避難目標地点
- 市指定の緊急避難場所
- 市指定の避難所
- 避難経路
- 災害時役立つ施設
- 防火水槽
- 避難時危険箇所
- 水路に注意
- 過去に浸水した箇所 (住民の方からの聞き取りによる範囲)



# 中庄ハザードマップ

0 100 200 300 m



### 河川洪水リスク

大阪府が平成25年3月までに公表した、洪水リスク表示図の浸水範囲と浸水深を示したものです。

- 100年に1度の確率降雨(1時間79.3mm) 床下浸水程度(0.5m未満)
- 100年に1度の確率降雨(1時間79.3mm) 床上浸水程度(0.5~3.0m未満)
- 200年に1度の確率降雨(1時間86.9mm)

✕ 破堤想定地点  
● 溢水想定地点

	市指定の緊急避難場所		避難時危険箇所
	市指定の避難所		避難時危険箇所
	避難経路		避難時危険箇所
	災害時役立つ施設		水路に注意
	防火水槽		過去に浸水した箇所 (住民の方からの聞き取りによる範囲)

### マップづくりの様子

このマップは、市と町内会が協働し、過去の被害の聞き取りや、危険箇所、避難の経路等について話し合いをしながら作成しました。

